

【報告】 今回は龍谷大学で行われたFDフォーラムのようすを報告させていただきます。

2月28日(土)、3月1日(日)と龍谷大学・深草キャンパスにて、第14回FDフォーラムが開催された。初日には『学生が身につけるべき力とは何か—個性ある学士課程教育の創造—』と題して、山形大学、金沢工業大学、京都大学、それぞれの取組が紹介され、シンポジウムが行われた。山形大学は①何よりも学生を大切に、学生が主役となる大学創りをする。②教育、特に教養教育を充実させる。の2つの経営方針を立て、「結城プラン」の策定と1年ごとのPDCAサイクルの確立による教養教育の改革プランを報告した。金沢工業大学は「人間力教育」「プロジェクトデザイン教育」「キャリア教育」と教育の方向性、達成目標などを明確にし、4年間を通じて学生にきめ細やかな対応を行うなどのシステム作りを充実させた。そのことにより、それぞれの課程での目標達成が着実に進んでいることなどの報告があった。京都大学では、「自由の学風」のもと、様々な自主的な教育改革が実施され、これらの活動をサポートするシステムも作られてきているとしながらも、全体を組織する力は弱体であるとし、1)ローカリズムの尊重、2)啓蒙ではなく共同の連携へ、3)改革の自己組織化の援助 を目指し、学生集団の学習を促進するために、教育実施、教育改善を進めるとともに、教育する集団として成熟することが「個性ある学士課程教育の創造」のためのFDであるとの位置づけを行った。

2日目に行われた多くの分科会・シンポジウムの中で、「地域連携型教育から、何が学べるか」に参加し、京都文教大学、佛教大学、長岡大学の発表を聞いた。各大学も行政とがっちり連携したプログラムを立ち上げ、「現場主義教育」の理念のもと、学生と地域住民がともに目的をもって関わり合う取組の成果などが報告された。そこでの取組はどれも熱の入ったもので、『学生の成長がはっきりと認められた』と、各大学とも自信を持って報告していたことが印象的だった。

これらの取組を聞いて、地域との連携とは何か・・・と改めて考えてされた。このGPでの取組は副題に～知の循環型社会を目指して～とついている。知を循環させる社会とは何か。それは“人の循環”ではないだろうか。社会で得た様々な経験を持つ社会人が、もう一度大学で学ぶ。先生や学生と交流を持つ。このことによってまた新たな学びを得、自分の持つ「経験からの学び」と融合される。それを大学という場で伝える、あるいは社会で、家庭で、その“知”を次に伝える。伝えられた“知”はそれぞれの人の中で融合され、また大学に戻りさらに高められる・・・こうやって人が人に伝え、その人の循環が大学と社会の区別なく行われることが、「知の循環型社会」というものなのではないか・・・そう思った。(光永雅子)

ここで
おさらい!

このことは、なんだろう?

★ **FD**とは…Faculty Development の略

教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取組の総称。

★ **PDCA**サイクルとは… P:Plan= 計画 D:Do = 実施・実行

C:Check = 評価 A:Act = 改善

この4段階を順次行って1周したら、最後のActを次のPDCAにつなげ、螺旋を描くように1周ごとにサイクルを向上させて、継続的な業務改善を行っていくこと。

「学びのコミュニティー」特別授業のお知らせ

このGPでの取組をより多くの教員・学生・社会人に知って頂き、またクリッカーなどの導入機器を活用して能動的な学習を教養などの共通教育科目で、あるいは専門の授業で展開する方策を考える「学びのコミュニティー」特別授業を企画しました。興味のある方、是非ご参加ください!!

★ **場所**：総合科学部3号館1階 スタジオ

★ **日時**：平成21年3月25日 15:00～17:00

★ **対象**：徳島大学教員、学生、地域社会人

★ **内容**

15:00	はじめに (佐野勝徳 全学共通教育センター長)
15:10	取組の概要と導入設備について (斉藤隆仁 総合科学部)
15:30	クリッカーの使い方 (山川達也 キーパッドジャパン)
16:00	模擬授業 (中恵真理子、光永雅子 全学共通教育センター)
16:15	アクティブラーニングから宇宙を探る (伏見賢一 総合科学部)
16:30	5号館天体観測室見学

連絡先：総合科学部 斉藤隆仁 (saito@ias.tokushima-u.ac.jp、内線2501)

～編集後記～

大学に勤めるようになるまで、子育て真っ最中の専業主婦だった私。今は仕事を通じてこのように学ばせて頂いていますが、子どもを抱える主婦が大学の学びに参加する難しさをよく知っています。だからこそ、大いに願うのが、学業が本分である学生さんはもちろん、今学ぶ余裕のある社会人の方にどんどん大学で学んで欲しいということ。光永の主張でもあったように、その学びを地域に、家庭に持ち帰って、ぜひ還元させて頂きたい。今学べない人も、いつか余裕の出来た時に、今度はその人が学びに出て、また次に伝えていく…そんな風に順に学びながら“知”をリレーしていく社会であつたら、と思います。(境)